

VVN 第12回研修会「Jリーグとホームタウン」

日時： 2003年6月15日(日)13:30 ~ 15:30

場所： セルバ5F セルバホール

講師： 武田 均 氏 (仙台市市民局 文化スポーツ部 スポーツ交流課 課長)



講師紹介 武田 均さん

市政出前講座によりお願いした企画。  
文化スポーツ部はスポーツ行政の窓口で  
あり、ベガルタ仙台のホームタウン協議会の  
事務局もあるところです。

## 【 ベガルタ仙台ホームタウン協議会について 】

こんにちは、私は仙台市市民局の文化スポーツ部の武田と申します。本日は「市政出前講座」のいっかんとして「Jリーグとホームタウン」ということでお話しさせていただきます。ご承知のように文化スポーツ部の中には、ベガルタ仙台ホームタウン協議会があります。この協議会の県との関わりですが、仙台市は宮城県にありますので県からも支出を頂いていますが、ホームタウン協議会への支出は市のほうが500万円多いです。ホームタウンとしての位置づけは仙台中心となっています。他にもソニー仙台がありますが、こちらには仙台市として支出はしておりません。

他にクラブとのかかわりとしては、地域との交流が大切だということで、小中学生を対象にしたサッカースクールやバドミントンなどプロとしてスポーツ振興をやっていただいていることは行政側としてもありがたいです。平成13年度の仙台スタジアム利用日数は、70日、内訳はサッカーが40日その中でベガルタは25日、ソニー仙台は9日、その他が6日、ラグビーは6日利用、アメフトは4日利用、一般開放は4日、その他に施設見学で県外の子どもが遠足で訪れています。

日本サッカー協会の事務局長と話した際に、「仙台スタジアムが一番」と言われました。「他行政からスタジアムの相談を受けると『仙台スタジアムに行きなさい、仙台駅から地下鉄と徒歩で行きなさい。交通網の発達した都市型の施設では日本一だろう』と紹介していますので誇りを持って紹介してください」と言われます。特に川淵さんがお気に入りです。陸上競技場とサッカー場の違いがあるのかなと思います。そんな中で好評を頂いている仙台スタジアムかなと思います。

平成7年にスタジアムがオープンした時、7月にキリンカップ、トルコ対クロアチア戦を持って来ました。実はその時から私はスポーツ課に所属しているのですが、クロアチアの選手が練習でスタジアムに入ってきた時「まず写真を撮ろう」と言いました。トルコチームも同様でした。先日来たイタリアのキエーボの監督に記者が「仙台スタジアムはどうだ」と聞いたところ、「すばらしい、特に芝がすばらしい。硬くもなく軟らかくもなく、こんなスタジアムがうちに欲しい、セリエAの試合をしたい」と言いました。スタジアムの場長さんは満足げでした。国際試合も対応できるいいスタジアムだなと思います。

前置きが長くなりましたが、ベガルタ仙台ホームタウン協議会は最初県が主体となってやってきましたが、平成14年度から仙台市がホームタウンとしての役割を担うということで3千万円負担しています。県は1千万円、県サッカー協会は百万円です。合計4千万円の中で事業を行なっています。会長は藤井市長、その他、市民後援会から佐藤宗幸さん、河北新報社、仙台市サッカー協会、宮城県サッカー協会などが事業計画を練っています。

平成15年度の事業計画ですが、ベガルタの色合いを仙台市として強く出していこうということから、見に来る方に対していい雰囲気で見えていただく、広くベガルタ仙台をPRしていこう、ということが、随所に出てきていると思います。ホームタウンサミットもその一つだと思います。もう一つは市民活動の拡大の事業です。VVNさんに支援をしていきたいと思いますというのもその一つです。実際にうまく支援していければいいなと思っています。全国ホームタウンサミットの開催支援ということで、皆さんに集まっていただいて、運営、試合を見ていただく、そしてその後が大切だと思います。やった後、全国のネットワークを作っているんな情報交換をしよう、そしてより以上の効果をあげることが大事で、そのためにJ1・J2含めているんな団体がきます。9月20・21日、FC東京戦を見ながら第5回ホームタウンサミットがあります。その支援のために百万円ほど出します。

その他、各種イベントの支援、仙台市内でスポーツ少年団のサッカー大会を支援しています。これは県内全部ということもあるのですが、今のところは市内5区の決勝大会を実施しています。あのスタジアムでできることに子ども達は感激します。歓声が子どもたちに伝わります。一生のいい思い出になるでしょう。その他、仙台スタジアム祭りの支援をしています。今年は6月21日、10時半から3時までです。ベガッタくんの石像を寄付してもらいました。全長2m60cmです。1ヶ月後くらいには除幕式をしたいと思っています。このスタジアム祭には2百万円補助をしています。また3月のシーズン壮行会にも補助をしています。来年もシーズン前に行ないたいものです。同日サッカー協会の激励会がありました。すごい盛り上がりでした。選手が「自分が商品なんだ」という思いを持ってサインなどもして欲しいです、そういう思いを持っていない選手がいるという意味ではありませんが(笑い)。こうして壮行会の支援もしていきたいです。

その他、招待については、先ほどの少年サッカー大会決勝にて小学生を試合後そのまま招待しています。

障害者も招待していますが、今年からアクションを加えた形で高齢者も招待しています。招待事業は結構お金がかかります。

次にホームタウンの広報事業として、泉中央の電飾看板、市営バス車体広告2台、地下鉄のステッカー、JRの雨どいの広告、地下鉄ショーウィンドウにユニフォームを飾っています。なかなかかっこいいです。こういう宣伝として千6百万円かかっています。かけただけのものはあると思います。その他、スタジアムに試合の告知横断幕を設置したり、フラッグを作ったりしています。また、県内の社会体育施設に月刊誌を配布しています。本代より郵送代がかかります。このように目で見てもらうものも必要かと思えます。ちなみにフラッグは設置するのに百万円かかります。このようなものは、目にも留まりますし、スタジアムを中心としたホームタウンの意味があると思います。

地域の活動と支援事業では、育成部でサッカー教室を25回、指導者はうんと迷うんです、自分が教えているものがこれでいいのかと振り返るものがないからです。子どもたちを育てていく上では目先のことだけではありません。指導者についても基本的なことから教えていなくてはならないということで指導者の講習会が増えたほうがいいと思います。その他のスポーツについては、バスケット、バレーボールとビームライフル教室も行なっています。体育協会と協賛してやる場合には、大会にグッズを提供しています。

ベガルタ整備支援事業では、セルバ1階バスプールにモニュメント的なものを作る事業に対して半額くらい支援していきます。実際は泉区役所と泉中央駅前活性化協議会で話をしています。できればホームタウンサミットまでにやれるといいなと思います。

運営支援事業としてベガルタ仙台支援活動推進事業の活動費ということで30万円、サポーターの活動支援事業でクラブハウスのオープンスペースの備品を提供していきます。ビッグフラッグの作り直しの支援もしていきます。泉のクラブハウスに関しては、仙台市として支援していく以上何らかのバックアップが必要だろうということで、仙台市から教育委員会に話して仙台市の土地を無償で20年の賃貸契約で貸しています。サッカー場に関しては、平日のみ2面半貸し出ししています。市民の皆さんは平日利用が少ないので平日に限って、週4日有料で貸し出ししています。

このような予算の使い方をしています、これがホームタウン協議会の仕事かといわれれば疑問が残るかもしれないが、前のつながり県とのつながりもあって平成15年度はこういう仕事をしています。

### 【 仙台元気プランについて 】

お手元のパンフレットをご覧ください。国の基本に基づいて昨年12月に仙台市でスポーツ振興基本計画を作りました。政令市の中で最初に作りました。読みやすいように「仙台元気プラン」としました。

パンフレットの施策の体系の中の「する、見る、支える」をご覧ください。「する」は皆にスポーツを楽しんでもらいましょう、「見る」は国際的スポーツイベントを開催して高いレベルのものを皆さんに見ていただきましょう、「支える」は全くみなさんそのままです。スポーツリーダーやボランティア育成活用です。難しい面もありますが、こういう計画で「する、見る、支える」を基本にしています。理念については次ページに書かれている通りです。2010年までということで様々な目標を決めています。皆が元気になることを目指していきましょう。目標の中のキーワードは「参加、協働、共有」です。「参加」はいつでも、どこでも、誰でも、することができる、「協働」は同じ土俵に立って皆さんとやっていきましょう、私は3年間国体にいましたが、キーワードは「協働」でした。仙台市で15,000人にスタッフになってもらいました。そのときのキーワードがそのままここにも生きています。

「する、見る、支える」について仙台市ではアンケートをとりました。一番多いのは「多くの人が気軽に参加できる機会を作ってください」というものでした。続いて「継続してスポーツに親しめるスポーツ環境、つまり施設的なものが欲しい」という意見です。「スポーツプログラムを作成して欲しい」があります。ベガルタも含めて「スポーツを見る」国際的全国的イベントをやりたい、というようなものがあります。「することも必要ですが、支えることへの支援をしたほうがいいのではないか」という考え方、「身近なところのできる施設が欲しい、偏りが見られる施設をバランスよくしてほしい、実際は西よりになっているのではないか」という意見があります。「簡単に利用申し込みできるようにしてほしい」等14項目を「する、見る、支える」に分けてまとめたものが重点事業の中にあります。スポーツライフで考えると、障害者、女性とスポーツ、高齢者とスポーツ、学校生活の中での体育スポーツの取り組みを行なうべきだとあります。スポーツ国際交流の推進も大きなウェイトを占めています。実は来

週(6月下旬)から東アジア女子バスケットを開催する予定でした。去年8月バスケットボール協会から「仙台市はどうですか」と話がありました。理由を聞くと平成6年に仙台で開いた女子アジアバスケットボール選手権で日本が初めて中国に勝ちました、その縁起がいいからということでした。しかし4月にきていきなりSARSですからね。皆でさあやろうと思っていた時でしたからね。やるのは簡単だとつくづく思いました、止めることがとても大変でした。「なぜやめるのか」という電話が大変でした。5月にバスケットボール協会に、市民の安全が図れないから延期のお願いに行きました。その時には全日本はずでに仙台で合宿をしていました。気の毒でしたが仕方ありません。仙台の決定が横浜や全国に波紋を及ぼしました。がっかりしました。

極東4カ国サッカー大会、北朝鮮は来ないので3カ国になりますが、このサッカー大会も中止になりました。会場を取っていたので、オーストラリアを加えた4カ国で女子サッカー大会を開きました。川淵さんは仙台スタジアムを気に入っていたのでこの企画をやらせてくれということで実施されました。9月には国際ユースサッカーを開きます。これもイタリアキャンプの財産かなと思います。仙台市長がイタリアに行って、イタリアがOK、教育長がブラジルに行ってブラジルもOK、日本代表もOK、これに東北ユース代表を加えます。鈴木武一さんが選手獲得に歩いています。テレビで生中継します。後は毎年やっています仙台ハーフマラソンです。そういうものは見るスポーツの中の振興ということですね。今年はいいいですが、来年はまだ決まっていません。仙台でやれるものは決まっています。サッカーはともかくキャパからいうと、仙台市体育館で5,000人規模、バスケットボール、バドミントン、卓球、バレーボールくらいかなと思います。あまり偏らないで話を進めています。「支える」という面では、あまり具体的ではありませんが、スポーツリーダー、スポーツボランティアの活動の場を体制的に構築していこうと思いますが、なかなか難しいものがあります。この部分はスポーツ企画課で担当しています。

#### 【 総合型スポーツクラブについて 】

では次に何をやるのという話になりますが、みなさんの中で「総合型地域スポーツクラブ」というのを聞いたことがありますか。文部科学省のほうで10年で各地域にひとつずつ作りましょうという話があります。多賀城市がそれで作りましたが、活発な活動はしていません。今までは行政からお金が流れてやっていたんですが、そうではなくて皆さんが受益者負担でお金を納めて、場所は身近なところを使っただけというものです。サッカーだけでなくそこへ行けばいろんなスポーツができる、それを受益者負担でやってスポーツの振興を図っていく、それが総合型といわれるものです。教える人も資格のある人が必要になってきます。質の高い指導員が必要になります。仙台市で今年どこを指定するかについてですが、仙台にはスポーツ団体をまとめた仙台市スポーツ連盟があります。そこと仙台市で話し合っとうまくいけば平成16年度にはモデルを作りたいと思います。私の大きな荷物の一つです。ひとつでもできれば、それがモデルとなって増えていこう、準備をしているところです、大きな目標です。

施策の2番目として学区民や体協など種目や地域に区切られるグループの見直しをして市民参加型にしたいです。3番目はマンパワーの活用システムです。リーダーの研修を支援していく、その情報をどこかにまとめておく、仙台にはスポーツ連盟がありますが情報が一定していません。それをきちっとした体制を作っていきます。4番目はインフォメーションです。9月から電話で施設を取れるようになります。その体育施設に行かなくても24時間いつでも予約できるようになります。いつ誰が行っても「空いていますよ」という情報を流せるようになります。5番目のスポーツ設備の充実ということで、16、17年度で新田地区に宮城野区体育館を作ります。障害者用のアリーナを併設します。体育棟とプール、野球場ができます。野球場は中途半端じゃないかといわれますが、私はそうは思いません。市民の皆さんに利用していただく野球場を作ります。観客席は10,000くらいです。両翼が100m、センターまで120m、ホームベース後ろが22mくらいあります。鶴岡のグリーンスタジアムがいい例です。平成18年にはオープンしたいと思います。今年度は実施計画です。ようやく5区そろいます。その外に要望があればそれに沿いたいと思います。

施策の6番、7番、8番は、学校の施設開放を充実していきましょうということです。子ども達が少子化で少なくなると2校が一緒になって出場したりしています。子ども達と地域をもう少し結びつけてステップアップしていったらいいんじゃないでしょうか。こういうものが協議計画の中にあります。最後に、各区に総合型スポーツクラブを10年かけて作っていきましょう。皆さんすべてにスポーツを楽しんでいただきましょうという目安をたてて目標

が達成されればいいのかなと思っています。なにせ 9 年間の中での事業ですからピッチをあげていきながら皆で元気になるということを目指してこの計画を進めていきたいと思います。ちょうど時間になりました。今日はどうもありがとうございました。(拍手)いっぱい汗をかきました。

【 質疑応答 】

(司会)泉田:これからもっと汗をかいていただきます(笑い)

初めて聞く話もいっぱいあったかなと思いますが、武田さんには毎年一回くらい集まりに来ていただきたいと思っています。今までは個人的な人間のつながりを利用して研修会をやってきましたが、今日は正式な手続きを踏んでやってみました。仙台市には「市政出前講座」というものがあります。環境、教育等いろんな問題に対してテーマが事前に決まっています。それを公聴課に申し込むと職員の方が派遣されてセミナーをしてくれるというものです。それを利用して申し込みをいたしました。せっかくですからしっかりと勉強をしましょう。質問がありましたらどうぞ。

加藤:仙台スタジアムで話題になりましたが、20,000人では狭すぎる、増築しようかという話があったと思いますが、その後の状況はどうなりましたでしょうか。

武田:実際その話で動いてはいます。いすを増やせる部分があるのではないかと見直しをしています。立ち見については、いす席と立見席の動線を分けることが必要になります。仮に一番上にすると地震のときに危険です。記者席ですが、もう少し狭くてもいいのではないかと、そう思いませんか(笑い)。そのような席の見直しと、ゴール裏をなんとかできないか、客席の中でいくらか足すことは可能かと思っています。仮設ブースを作った場合、相手側サイドでは、手前に相手側サポーターがいて後ろ側にベガルタサポーターがいるようになりますが、ほんとに大丈夫?という話もあります。仮設ブースを設置するのは市で、運営するのはベガルタ仙台になります。試合毎に設置、撤去すると収入と支出が見合うか、いわゆるペイできるかという状況です。今、その話し合いはしています。それが、「やります」とか「ペイできます」という話がないと市側は難しいです。今年度やるためには9月補正予算にかけなければなりません。設置はゲームがない期間、天皇杯が終わってから3月までにしなければなりません、早めに結論を出したいとは思っています。ハンドレッドさんに検討していただいています。

加藤:計画ではどのくらいの数ですか。

武田:全体で1,000弱ですね。さっき話した席の見直しも加えてですね。なかなか構造的に難しいです。Jリーグで、「ゴール裏は何メートル取らなければならない」という決まりがあります。確か10m切ってはだめだと思っています。少しでもというのであれば、市では前向きな検討をしています。

泉田:仙台スタジアムを見学に来た人はどのくらいいますか。ぜひ一度教えてください。何を言いたいかというと、他の施設では施設の有効活用ということで施設見学に力を入れているところが多くて、そこから副収入で見学料をとっているところも多いです。じゃあそうなる、どうやって対応をするかということになりますが、職員の方が5人しかいない、対応できるのかという話になって、スタジアムボランティアや施設ボランティアを考える余地がでてくると思います。グランディの方にはすでにあります。仙スタボランティアというのも考え方としてでてくると思います。その辺の検討が徐々に必要かなということが一点と、スポーツ振興計画のボランティア育成に絡んでいくとすれば、国際的なイベントを行なう際、現在ベガルタボランティア、ハーフマラソンボランティアのように点としてしかないです。それをどのように一つのものにしていろいろなイベントにうまく参加をさせていく、ことも視点として必要な気がします。それを是非武田さんのところで検討していただきたいなと思います。そこにVVNとして接点が生れていくのではないかと思います。VVNはベガルタの試合しか出ないと頑なに思っているわけではありません。今回の日韓OB戦にも出かけて行ってお手伝いをするというようなことにもやっています。仙台市内のほかのイベントでも一緒ではないかなと思っています。

武田:お話の通り、国際大会の中での「市民協働」というのが一つのキーワードでもありまして、今までは各スポーツ協会から広がってお手伝いいただいています。こういう団体があれば是非話をして協力をいただきたいです。そういう中で大きな組織ができればいいなと思います。

泉田:仙台カップの時などに手伝いたいというメンバーもいるでしょう、あらかじめ計画的に受け皿として考えながら動くといいかなと思います。プロが入る余地のほうが断然多い、運営上は楽とは思いますがどうなのかなと思います。

武田:ありがとうございます。来週サッカー協会がきますので、どこにどういう人が欲しいのかという話があれば

してみたいと思います。相手の考えをまず聞きます。

**伊藤:**質問ではないのですが、私はよりよいスタジアムを課題に参加しましたが、その際に今ある Jリーグのスタジアムの中でどこがいいだろうという話題が出た時に一番最初に名前が挙がったのが仙台スタジアムです。自慢ではなくて、他のチームでも評価しています。ただ、180度評判が悪かったのが(笑い、以下略)、という話ができました。これは胸を張っていいと思います。ベガルタの試合があった日の経済効果というのはどうなんでしょう。

**武田:**年間35億です。J2の時は試合数が多かったですが、(試合数の少ない)J1にあがってもそれを越していると交通局は言っています。商工会からは逆の意味で渋滞や、イトーヨーカドーなどに買い物に出でなくなるという課題もあります。今、調査をしています。いろんな意味でせつかく地下鉄があるのだから、地下鉄がない人はどうするか、どこかに止めてシャトルバスでくるかいろんな考えがあると思います。データを整理して夏には商工会と話し合いをしたいと思います。

**榊:**区役所の駐車場の話は？

**武田:**そうですね、キャパの話もありますが、少く料金をとってもいいのではないかという話もあります、少しずつ話を進めたいです。

**森:**私は太白区民ですが、サッカー時の太白区役所の駐車場解放について利用が数台しかないそうです。もっとPRして、そこに車を置いて地下鉄でサッカーを見に来るようにしてはいかがでしょうか。

**武田:**そうですね、太白区役所もそうですが、パークアンドライドのように地下鉄沿線上の駐車場の紹介があってもいいかなと思います。そうすることで時間が計算できますよね。やり方として必要でしょうし、歩けば商店街は賑わいます。チケットを持っていけば、何パーセントが割り引くとか20,000人の人をただ見ているだけじゃなくてワンクッション置く工夫があるといいと思います。

**泉田:**では、後は要望の形で箇条書きで申します。一つは、教室支援の話がありましたが、教室というとサッカーとかテニス教室というものでしょうが、ジュビロ磐田の事例では、チームのトレーナーが栄養学の講師をする、いわば子どもの身体作りの方から考えていくようなサポートをしています。直接的にスポーツを支援するだけではなく子どもたちを育てる面からも考えていただけないでしょうか。合わせて、街づくりの視点からいえば、仙スタを使わない日にどうするかというのが課題として残っていますので、教室なども施設を活用していくのもあるのかなと思います。もう一点は交流型のスポーツのネットワークというのがありましたね。その中のひとつとして、施設の予約やスポーツイベントの情報発信があると思います。ホームページは作りますか。

**武田:**広域型スポーツクラブのですか、それは作ります。

**泉田:**山形とか、大阪はりっぱなものがあります。その中にボランティアの情報やリーダーの情報など充実していて、更にそこにベガルタの情報につながるというようなホームページができあがるのかなとイメージがあります。そこにボランティアが係わっていけるのかなと思います。先ほど芝の話がありましたが、最初の頃失敗したとかはげたとか言う話があって苦労して今の仙スタの芝の状態になっていると思いますが、芝のスペースを増やしたいです。子どもたちが芝で遊べるというのは大事なことかなと思います。今は草原もなかなかないです。

**武田:**以前、柳生だったか、芝はやってやれないことはありませんが、維持管理が難しいです。でも勉強していかなくてはだめですね。やってしまった、だめだった、それで終わりではなくてそれをもとにしてどうしていくかですね。

**泉田:**おっしゃるとおりで、そこに方向性があると思います。仙台スポーツ連盟の中にもっと街づくりの市民のメンバーをいれるべきではないのかと思います。芝であれば園芸に詳しい人がいたり、環境・ゴミの問題なり、いろんな人が入ることで今までなかったスポーツ施設の使い方なり、維持管理の考え方ができていくのではないのでしょうか。総合型スポーツクラブを作っていく時には是非そういういろんな人を集めてやったほうが、既存の考えに依存するよりは違うものが出てくるのではないのでしょうか。

**武田:**たぶん結論はそうなるでしょう、ただ、どーんと石を投げてぶつかる人というのはなかなかいません。ある組織を使うことになるでしょう。その人たちが周りの加盟していない地域の人たちを広く集めて入れて作っていくというイメージ、そういう風に作ろうと思っています。ひとつの種目に突っ込んでいては広がりがないので、そうではなく、集まっていけないと長続きしませんから、本日はありがとうございました。

(文責 野坂 幸子)